



ひらどだい

令和3年度 学校だより 2月号 横浜市立平戸台小学校 校長 藤巻 孝之



鬼と節分

副校長 渡邊 智志

節分の日には多くのご家庭で「鬼は外、福は内」の掛け声で豆まきをすることと思います。人気の漫画のタイトルにも「鬼」という言葉が入っていたり、携帯電話のCMで人気俳優が鬼ちゃんを演じていたりします。子どもの遊びにも「鬼ごっこ」があり、「仕事の鬼」のように使われるなど、日本人の意識と切っても切れない「鬼」について調べてみました。

古くは「古事記」にあの世の使者として原型が登場する鬼ですが、その後、仏教や陰陽道などの影響を受けながら様々な姿や考えが取り込まれていきます。一方、民俗学的には「山の人」など異文化の対象や精霊の擬人化として用いた風習が認められています。また、たたりや自然災害などを引き起こす目に見えない巨大で超自然の存在ともとらえられています。「オニ」という名前は、目に見えないことを表す「隠(オン)」からきているともいわれています。一方、醜い姿をした化け物のような存在でもあり、絵に描かれるときの鬼は角をはやし黄色と黒の衣をまとっていることが一般的です。これは十二支の影響を受けたもので、よくない方角とされる「鬼門」が艮(うしとら)にあたるため、牛の角と虎の皮を身に着けているとされています。桃太郎の伝説で、反対の方角にあたる「申・酉・戌」(さる・とり・いぬ)をお供に鬼退治するというのもこの考えの影響とのことです。

「鬼教官」のように強いものの象徴として使われることも多く、自分の中にある弱いものや怠ける気持ちを追い出すという意味でよい存在としてとらえられることも多くあります。秋田のなまはげなどがその例にあたります。鬼をよいものとして祭っている文化は意外に多く、「鬼は内」と唱えて豆をまく地方や神社仏閣が日本のあちこちにあるようです。



節分ですが、正確には年に4回あります。二十四節気の「立春・立夏・立秋・立冬」の前日がそれにあたります。なぜ、2月の節分だけが残ったかという、やはり豆まきの風習があったためと考えられています。冬の寒期中、まいた豆を片付けるために強制的に掃除や換気をすることが健康的で衛生的、とても理にかなった風習だったというわけです。

と、ここまで調べて、手洗いと清掃・消毒、マスクと換気を毎日続けている現実に急に引き戻された気持ちになりました。健康のために大事なことは今も昔も変わらないということなのでしょう。ただ、感染症予防に対しては、年に一度の豆まきではなく、日々の小さな積み重ねが必要といえます。ご家庭のご協力を引き続きお願いいたします。

さて、どうして豆をまくのかというと「魔を減する」という語呂合わせが理由の一つになっているようです。節分だけに「豆知識」といったところでしょうか。